

# 令和4年度英語教育改善プラン推進事業【三重県】

☑ 児童生徒の発信力強化のための効果的な指導・評価

☑ 学校種間連携

☑ 英語担当教師の指導力・英語力の向上(小学校担当教師の指導力向上)

## 当該地域における英語教育の課題

### ①指導と評価の一体化

パフォーマンステストについて、実施回数(高)、実施内容(小・中・高)に課題が見られる。また、「CAN-DOリスト」の公表について、校種間で差が見られる。そして、研修の協議の場では、指導してきたことをどのように評価基準を設定し、どのような評価基準を作成し評価につなげるのかについて悩む教員の声がかかれた。要因としては、評価の在り方について理解が浸透していないことや、評価を授業改善につなげる方法や、パフォーマンステスト等の具体的な実施方法が共有されていないということが考えられる。

中高におけるパフォーマンステストの実施状況：中81.4%(90.5%)、高24.3%(38.4%)

小中高における「CAN-DOリスト」の公表：小39.2%(29.4%)、中65.8%(47.7%)、高100%(54.5%)

### ②学校種間連携の実施

小中連携を行っていない地域があり、地域間での差が大きいことが現状である。学校種間で連携することの必要性や効果、またその方法について周知できていないことが要因としてあげられる。

小中連携の実施状況：71.8%(72.5%) 小高連携の実施状況：9.4%(9.0%) 中高連携の実施状況：11.3%(20.7%)

### ③授業における言語活動の充実

英語担当教員及び生徒の「授業における英語による言語活動時間の割合」が令和元年度と比較し、中高ともに減少した。県教育委員会から、言語活動の必要性や実践例の発信が十分でなく、言語活動の具体的なイメージをもつことが難しい教員もいたことが考えられる。また、英語担当教員の授業における英語使用状況についても、上記課題に関連しているものと考えられる。

生徒の授業における英語による言語活動時間の割合：中64.1%(71.3%)、高47.0%(50.3%)

英語担当教員の授業における英語使用状況：中66.0%(73.4%)、高48.5%(46.0%)

【出典】令和3年度英語教育実施状況調査：本県(全国平均)

## <実施内容>

以下の内容以外に、全ての課題の解決に対応するため、年間を通して、市町等教育委員会や学校を訪問し連携を図ったり、英語教育の課題解決に向けた事例や情報について英語通信で発信した。また、全国に向けて、教員等の中から「Mie-英語授業 PR大使」を任命し、先進的な授業や効果的な研修の実践をSNS等を通して発信した。

### ◇学び続ける外国語担当教師を支援する「自治体連携オンライン英語授業改善サポート研修」の実施……………【高】(課題①)

山梨県、静岡県、鹿児島県と共に、自治体連携アライアンス英語研修を実施。各自自治体の研修講座に参加できることに加え、合同での研修も行った。テーマは、「新学習指導要領に基づいた『評価と指導改善』の基本的な考え方について」で、外国語科における3観点の趣旨を4技能5領域の指導と評価にどう活かすかについて、また、発話の表現における教科書を用いたCan-Doの具現化などについて研修講座を実施した。

### ◇パフォーマンステスト研究・開発チームによる取組……………【小・中・高】(課題①)

パフォーマンステスト研究・開発チームを立ち上げ、年間を通して、実施回数だけでなく、特に、パフォーマンステストの質の向上を目指し、適切な指導と評価をテーマに研究を行った。各校種で、チームメンバーが自身の実践を公開し、協議を行う研修会を実施した。また、年3回、チーム会議を開催し、チームメンバーの各校におけるパフォーマンステスト等の取組状況を共有し、チームアドバイザーである大学教授の助言をふまえ、次の取組へと実践を進めた。

### ◇小中高連携研究・開発チームによる取組……………【小・中・高】(課題②)

昨年度のチーム構成に高校も加え、3地域からなる小中高連携研究・開発チームを立ち上げ、年間を通して、小中高連携のあり方について地域の状況をふまえながら研究を行った。各校種で、全てのチームメンバーが小中高連携をふまえた授業を公開し、協議を行う研修会を実施した。また、年3回、チーム会議を開催し、第2回では、地域ごとに会議を開催し、チームメンバーの校区における小中高連携の取組状況を共有し、チームアドバイザーである大学准教授の助言をふまえ、取組を改善していった。

### ◇事例の普及に重点を置いた教員研修の実施……………【小・中・高】(課題③)

求められる英語力を育成するために、授業では児童生徒が学んだ知識や技能を活用し、目的・場面・状況に合う英語表現や内容を考え、思考力・判断力・表現力を育てるような言語活動を行う必要がある。そのため、教員が言語活動を行う目的や場面、状況を明確にした授業づくりについて学び、実践することをねらいとして、研修を実施した。また、学習者用デジタル教科書の活用等のテーマで公開授業をともなう研修も実施し、事例の普及に努めた。

①小・中・高を通じた系統的な指導と学習評価の在り方を学ぶ基礎研修・・・各校種1講座

②学校や教員の課題に応じてテーマ別に学ぶ専門性向上研修・・・延べ37講座

# <成果指標に基づく成果及び検証> 【出典】令和4年度英語教育実施状況調査：本県（前年比）

## ■ 課題①に対する成果検証

〈パフォーマンステストの実施状況：中86.7%(+5.3pt)、高53.5%(+29.2pt)〉

〈「CAN-DOリスト」の公表：小59.1%(+19.9pt)、中70.3%(+4.5pt)、高100%(±0pt)〉

令和4年度英語教育実施状況調査において、改善が見られた。これは、研究・開発チームにおいて各校種で、実践を公開し、協議することで、具体をもって、パフォーマンステストの指導と評価の内容や方法について学べたこと、また教師と児童・生徒が目指す姿を共有し、授業で学んだことをテストで評価できる実践へと改善できたこと等を県内に研修の折や英語通信等で発信したことが要因のひとつとして考えられる。また、4県が連携した事業においては、他県との連携や研修で教員同士が協議を行うことによって、教員からは、「自分と共通した課題があることが分かり、悩みを共有し合えた。」という声が聞かれ、その後の授業改善につなげることができた。

## ■ 課題②に対する成果検証

〈学校種間連携の実施状況 小中 68.2%(-3.6pt)、小高 18.9%(+9.5pt)、中高 11.3%(±0pt)〉

校区内のメンバーが異校種のメンバーの実践を参観することで、発達段階ごとの学びの様子や指導の方法を知ることができ、自身の校種での効果的な実践につなげることができた。小中連携の意義や本チームの実践についても、県内に研修の折や英語通信等で発信したが、数値的には、小中連携においては減少するなど、引き続き県内の課題である。

## ■ 課題③に対する成果検証

〈生徒の授業における英語による言語活動時間の割合：中68.3%(+4.2pt)、高56.4%(+9.4pt)〉

〈英語担当教員の授業における英語使用状況：中69.5% (+3.5pt)、高48.1% (-0.4pt)〉

令和4年度英語教育実施状況調査において、「生徒の授業における英語による言語活動時間の割合」について改善が見られた。教員・指導主事対象の研修会、学校訪問、英語通信等にて、繰り返し、言語活動の必要性や具体例を発信するとともに、生徒が英語に触れる機会を増やす要因にもなる、教師が英語を話して授業を行うことの好影響について周知したことによる成果と言える。

# <今後の方向性>

## ■ 課題①に対して

2023年度は、前年度の4県が連携した事業を継続し各自治体の取組の成果を広く還元するだけでなく、新たに各県の教員が主体的に意見を出し合い課題を見出すための会（オンラインゼミナール）を設定し、4県合同のオンラインセミナーをその課題解決に向けたものとし、より系統的かつ効果的な取組とする。また、「パフォーマンステスト」の取組について学ぶチームを立ち上げ、異校種間で実践を公開し合うとともに、事後協議では、授業者やアドバイザーの講話だけに終止するのではなく、その研修会に参加した教員同士でそれぞれの学校での有効的な取組、課題となっている事案等について話し合う「共有できる場」の提供を兼ねる研修会を設定していく。

## ■ 課題②に対して

2023年度も、チームを立ち上げ連携の方法について学ぶとともに、2022度よりもさらに「連携」するテーマを明確にし、実践公開だけにとどめず、該当市町が主催する研修会へ県教委がサポートに入ったり、取組による校種間での成長を分析したりしていく。そして、小中高連携のハブ的校種である「中学校」において、生徒の学習到達度を客観的に把握し、今後の授業改善・学習改善に生かすために、年度の半ばで外部試験を活用し、そこで明らかになった「強み」「弱み」を年度後半の指導へ生かしていく。その際、明らかになった課題に対し「小・中・高」それぞれの校種で、どのように取り組むことで、生徒の英語力向上につながっていくことができるかについても共に考察していく。

## ■ 課題③に対して

求められる英語力を育成するために、小中高等学校間での学びの接続を意識しながら、発達段階ごとの学びの目標や内容を教員が把握し、言語活動を行う目的や場面、状況を明確にした授業づくりについて学び、実践することをねらいとした研修を実施する。

## 成果普及

○英語通信

<https://drive.google.com/file/d/1xUMV2Jbrt3H-yWCqvJQe8V91kthiL3DX/view?usp=sharing>

○PR大使の発信

<https://www.instagram.com/miekenshuinsta/?hl=ja>

○実践事例集

<https://drive.google.com/drive/folders/1t7Eit9nbGRu3F5-Md7z1KW1GPj08kitB?usp=sharing>